

2013年 3月 11日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
理事長 紀伊國 献三 殿

施設名 一般財団法人 ライフ・プランニング・センター
ピースハウス病院

代表者 院長 齊藤 英一



2012年度ホスピス緩和ケアナース養成研究事業助成
に係る報告書の提出について

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 研究・研修事業 2012年度ホスピス緩和ケアナース養成研究事業
- 2 期 間 2012年 4月 1日 ～ 2013年 3月31日
- 3 報 告 書
 - I 事業の目的・方法
 - II 内容・実施経過
 - III 成果
 - IV 収支報告
 - ①助成金の主な用途
 - ②助成金に関わる部分の決算書「写」
 - V 添付書類
研修カリキュラム

I. 事業の目的・方法

1. 目的

ホスピス緩和ケアの実践の場に臨み、自らの体験を通して、また、チームを構成する各専門職からその果たす役割について直接指導を受けることにより、下記の目的を達成できるような研修プログラムを提供する。

研修の目的

- ① 実践を通してホスピス緩和ケアの基本理念を理解し、チームアプローチの実際を学ぶ。
- ② ホスピス緩和ケアに必要な知識、技術、態度を習得する。
- ③ 自施設におけるケアの実践のための具体的な方策がたてられる。

2. 方法

1) 対象

日本看護協会の「ナースのためのホスピス緩和ケア研修」受講生
同様の体制のもと、神奈川県看護協会「緩和ケア認定看護師教育課程」受講生を入れる。

2) 方法

- ・（公財）笹川記念保健研究財団より年間研修受入れ人数について連絡を受け、他の教育プログラムとのスケジュール調整、研修指導体制など、研修受入れのための準備をする。
- ・ 日本看護協会から研修期間・研修生名簿の連絡を受け、研修に関する資料一式を研修生へ送付する。宿泊施設など、受入れのための具体的準備を進める。
- ・ 院内各職種に研修予定を連絡し、研修への協力を依頼する。研修期間中も、各スタッフからの研修に関する疑問、意見などを聴く体制を持ち、研修の進め方、運営に反映させていく。
- ・ プログラムに沿って研修を実施し、研修の成果について、研修生とともに評価する。
- ・ 教育委員会を設置し、研修の進め方、指導方法、教材などについて検討し、研修受入れについて常に再評価しながら進める。この教育委員会は、受入れ施設のケアの質向上のために、院内教育プログラムの企画、実践、評価の責任を持つ。なお、研修生は希望により院内教育プログラムへ参加することが可能である。
- ・ 倫理委員会において、臨床場面で遭遇する倫理的課題について検討し、特に研修受入れに関する患者・家族への影響について十分配慮する。
- ・ 神奈川県看護協会主催の「緩和ケア認定看護師教育課程研修」に関しても方法は「ナースのためのホスピス緩和ケア研修」に準ずる。

II. 内容・実施経過

1. 研修期間

「ナースのためのホスピス緩和ケア研修」「緩和ケア認定看護師教育課程」受講生ともに3週間

2. 研修内容

日本看護協会において基本的な講義を受けているため、研修プログラムは、受講生が臨床の場でナースと行動を共にしながら、ホスピスにおける看護を実体験することが中心となる。その他、チームを構成する各専門職からの小講義、ケアの継続を学ぶための夜間業務や在宅ケアの体験、また、各種勉強会への参加など、各人の研修目的に添って、研修生自らが選択できるプログラムを提供する。

実際には、図1-1を基本の研修プログラムとし、選択制として図1-2のプログラムを提示する。まずホスピスの全体像を理解し、研修生が自己の研修目的に合わせて、学びたいものを選択し、自分の研修プログラムを立案することになる。

認定看護師教育過程の場合は、実際に患者を受持ち、現場の看護師と共に、ケアプランを立て、ケアを実践していく。その際、研修担当者は、研修生がチームメンバーの一員として、多職種との情報交換、協働がスムーズに進められるよう支援する。

3. 研修の進め方

- ・教育委員会において研修プログラムの検討を行い、実際の受入れ準備は教育研究所が行う。
- ・研修担当ナースが、各研修生の目的に沿った研修プログラムの作成、日々のスケジュール調整、研修生とスタッフとの橋渡しなど、研修現場におけるコーディネーションを行う。
- ・研修の実際においては、担当ナースだけでなく、他の看護スタッフも研修生とともに行動する。看護以外の専門職はその役割について直接指導することがあり、また、ボランティア実習においてはボランティアが直接説明するなど、ホスピス緩和ケアに参加する全てのチームメンバーが研修生への指導に関与する。
- ・研修初日の研修目的の確認、最終日のまとめは、研修担当ナース、看護部長、教育研究所所長が出席して行う。
- ・研修全体の責任、コーディネーションは教育研究所所長が担う。

Ⅲ. 成 果

1. 受講者の背景

「ナースのためのホスピス緩和ケア研修」受講生は10名であった。年齢は、29才から53才、平均40.7才、勤務場所については、ホスピス緩和ケア病棟7名、緩和ケア病棟開設準備中2名、一般病棟1名であった。「緩和ケア認定看護師教育課程」受講生は4名で、年齢は、30才から38才、平均33.8才、ホスピス緩和ケア病棟勤務2名、一般病棟勤務2名であった。

2. 研修生による評価

「ナースのためのホスピス緩和ケア研修」受講生は、事前に日本看護協会より実習報告書が渡されており、最終日に提出していただいている。この報告書の中から、実習期間、時期、プログラムの内容、実習受入れ体制、実習指導体制について、10名の研修生による評価を別紙のようにまとめた。

実習期間：本研修は、直接患者を受け持って看護を実践するのではなく、看護師と行動をともにしながら学ぶ見学研修のため、全員が3週間という期間を適切と評価して

いた。また、当院は独立型ホスピスという特殊性もあり、第1週目はホスピスケアの環境を理解するには意義深い時間となっているようであり、2週目以降に多職種体験を取り入れ、ホスピス緩和ケアの現場を全体的に把握するのに3週間という期間は概ね適切であったようである。

実習時期：日本看護協会において3週間の講義を受け、その後すぐ実習に参加する者と、いったん現場に戻った後あらためて実習に参加する者がいる。概ね、希望通りであったようだが、いったん自施設に戻った後に実習をする場合には、課題がより明確になり、机上の学習を臨地実習で結びつけやすいという意見があった。一方、座学からの時間が空きすぎたという感想もあった。

実習プログラム：各人の研修目的にそって選択できる方法を取り入れた。ほとんどの研修生が、多職種によるチームケアやボランティアの活動に関心が高く、在宅ケアやホスピス教育研究所主宰の研究会にも関心を示した。音楽療法やチャプレンの活動など、ホスピスならではの職種の活動の見学、また、時間外に開催される事例検討会、地域緩和ケア研究会などにも出席し、意見交換に参加していた。

看護師以外の他職種の体験や講義の希望がある場合でも、1週目には、ホスピス緩和ケアにおける看護の実践を体験してもらうことが必要と考え、2週目以降に他職種を取り入れるように配慮している。そのことにより、看護の役割や他職種の役割をあらためて理解するのに役立った、視野が広がったなどの意見が聞かれた。「学びたいことを学ぶことができた」という声が多く、研修生自身でプログラムを完成することで、研修への自己責任の意識が高まり、取組む姿勢も積極的になり、各人の満足度を高めたのではないかなと思う。

実習受け入れ体制、指導体制：「細かい配慮をしてもらい、安心して学ぶことができた」「病院全体で研修を受け入れる体制があり、あまり緊張せず実習に臨むことができた」など、受け入れ体制やスタッフの指導体制について評価をいただいた。全ての職員、ボランティアが研修受け入れへの必要性、重要性を理解し、実際の指導にも参加していることで研修生からも一定の評価をいただけたものと思う。なお、各研修生の研修目的の達成度などについては、各自の報告書が別途提出されているのでここでは省略した。

3. 認定看護師研修

神奈川県看護協会認定看護師教育課程の研修生受け入れについては、研修生が直接患者を受け持つということで、研修指導体制を厚くした。具体的には、患者と一緒に受け持つスタッフナース、研修担当の当院認定看護師、さらに看護管理者がバックアップする体制を取り、3週間という限られた研修期間の中で認定看護師としての研修ができるよう支援した。

研修生は、入院時から一事例に丁寧に関わることで、それぞれが自身の経験の中で遭遇した課題について再考し、ケアを振り返る様子がうかがえた。自分自身の看護を振り返る機会にもなり、その上で、認定看護師としての役割を確認できたようである。また、看護だけでなく、他職種へも関心を向け、チームケアについての更なる理解を深めたようである。

4. おわりに

以上、平成24年度ホスピス緩和ケアナース養成研究事業の成果を述べた。

(公財) 笹川記念保健協力財団、看護協会、そして実習施設が、互いに連携・協力をし、今年度も充実した研修プログラムを展開することができた。

本研修は、緩和ケア病棟を開設して間もない施設からの研修生にとっては、先に行く施設で研修することにより、自施設におけるケアを確立していくために有意義な研修になっていたと思う。特に、今年度は緩和ケア病棟に所属する、あるいは、開設準備中の施設からの研修生が多かった。このことから、日本各地で緩和ケア病棟が開設され、数は増えているが、ケアの質の向上という点において、本研修の果たす役割の大きさ、重要性を再確認した。また、一般病棟における緩和ケアの質の向上を目指して研修に参加しているものにとっては、自身の勤務する職場と独立型ホスピスとの環境の違いに気づくとともに、緩和ケアの基本、多職種によるチームケアと看護の役割、症状マネジメントの実際など、ケアの本質は変わらないことを確認する機会となり、学びを深め、有意義な研修になっていたと思う。特に、多職種によるチームケアの実際を見学し、ケアカンファレンスや事例検討会において院内で働く全ての職種が参加し、それぞれの立場から発言し、意見交換をする場面に参加することは、様々な視点から患者のケアを考えることの重要性に気付く機会になったようである。

研修生を受入れることは、ピースハウスで働くスタッフ・ボランティアにとっても、さまざまなよい影響がもたらされた。独立型ホスピスという閉鎖社会に新鮮な風が吹き、他施設の方との情報交換の場となり、自分たちのケアを見直す機会になり、また、自施設のチームケアを研修生から高く評価されることで、励まされ、自信を回復したスタッフも多かったように思う。

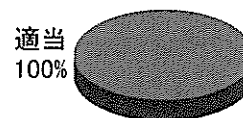
本事業は、今年度で終了となりますが、上述したように、研修生にとって、また、受け入れる側にとっても非常に意義深いものであったことを、今、あらため確認しています。当院は、独立型ホスピスとして 1993 年に開院し、20 年目を迎えています。この間、多くの研修生を受け入れてきましたが、スタッフ・ボランティア一人ひとり、そして、組織としても多くの学びをいただき、成長させていただきました。今後も、ケアの質の向上に努めるとともに、ホスピス教育研究所を併設する機関として、その役割を果たしていきたいと考えています。長年にわたり本事業に参加させていただいたことにあらためて感謝申し上げます。

平成24年度「緩和ケアナース養成研修」実習報告

1. 実習期間はいかがでしたか

適当	短い	長い	計
10	0	0	10
100%	0%	0%	100%

実習期間

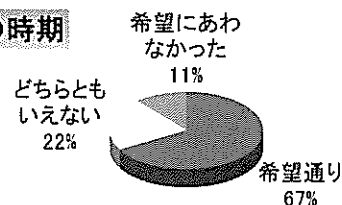


- ・ 目標の達成だけでなく、患者様の生活を乱すことなく、職場の協力も可能な範囲であったと思います。
- ・ 一通り見学することができた。
- ・ 患者の受け持ちをするのであれば、長い方がよいが、今回の研修目的からすれば適当である。
- ・ 東名高速を使つての通学だったので長期に涉ると困難だったかもしれない。

2. 実習の時期はいかがでしたか

希望通り	どちらともいえない	希望にあわなかった	計
6	2	1	9
60%	20%	10%	90%

実習の時期



〈希望通り〉

- ・ 講義を受けてからすぐだったので、モチベーションを保ったままスムーズに実習に入れた。
- ・ 第一希望が通ったが、座学のあと、時間がたちすぎた気がする。
- ・ 第一希望が通ったため、職場や家庭への影響が少なかった。
- ・ 講義のあと、十分な時間をいただけたので、ゆっくり振り返りや復習をし実習に望むことができた。

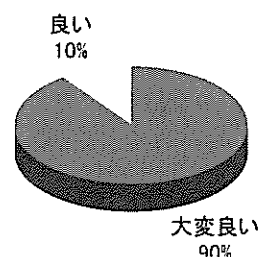
〈どちらともいえない〉

- ・ 神戸の研修の後に、あまり期間を空けないで、実習に入った方がよかった。
- ・ 11月か12月がよかった。(実際は2月)

3. 実習プログラムの内容はいかがでしたか

大変良い	良い	まあまあ	不十分	計
9	1	0	0	10
90%	10%	0%	0%	100%

プログラムの内容



〈大変良い〉

- ・ 様々な職種に関わることが出来、それぞれの考えを知る機会になり、看護を振り返ることが出来ました。
- ・ 希望に沿って予定を組んでもらい、他職種を経験できた。
- ・ 希望を取り入れた内容であったため、満足できた。
- ・ 希望を取り入れた内容で大変ありがたかった。他職種の仕事を体験させてもらったことは、大きな学びになりました。夜勤も希望すれば良かったと後悔しています。
- ・ ボランティアやハウスキーパー等、他職種の役割・行動を実体験でき、視野が広がった。
- ・ 日々の細かい指導はなかったため自主性が発揮できた。

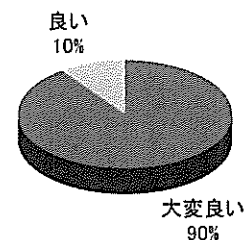
〈良い〉

- ・ 希望通りのことを経験させて頂き良かった。

4. 実習の受け入れ体制はいかがでしたか

大変良い	良い	まあまあ	不十分	計
9	1	0	0	10
90%	10%	0%	0%	100%

受け入れ体制



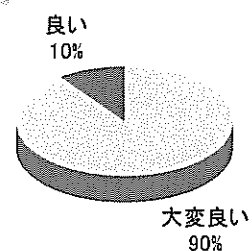
〈大変良い〉

- ・細かいところまで配慮して頂いて、感謝しています。
前月の研修生に当方から情報を求めていれば、受け入れ病院側の負担が減ったのではないかと反省しています。
- ・研修受け入れになれている感じで、特別な受け入れ体制がなく、緊張が少ない分全体を見ることができた。
- ・自由に見学出来たので、制約感がなく良かった。
- ・皆さん、よく声をかけてくださり、よくしていただいた。
- ・最初に病棟全体、業務の流れのオリエンテーションがあると入りやすかった。

5. 実習の指導体制はいかがでしたか

大変良い	良い	まあまあ	不十分	計
9	1	0	0	10
90%	10%	0%	0%	100%

指導体制



〈大変良い〉

- ・いろいろと配慮して下さり、充実した3週間を過ごせた。
- ・通常のケアに参加することができ、スタッフも親切に指導してくださったので、緊張感なく実習することができた。
- ・一緒にケアを実践できて、勉強になった。
- ・忙しい中、スタッフのかたにもよく教えていただきました。
- ・一つだけ残念だったのは、担当患者さん3,4名の中に研修生のかかわりを希望しない患者さんがいる場合、深く関われる患者さんが減ってしまったこと。

以上

図1-1

2012年度 研修プログラム(基本)

		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
第1週	月				オリエンテーション				チームに紹介 チームミーティング		宿泊施設へ案内		
	火		申し送り		ナースと共に行動				ナースと共に行動		申し送り		
	水												
	木												
	金												
第2週	月				Vo活動								
	火		申し送り			礼拝		チームに紹介 チームミーティング			申し送り		
	水				ナースと共に行動				ナースと共に行動				
	木												
	金												
第3週	月							チームに紹介 チームミーティング					
	火		申し送り		ナースと共に行動				ナースと共に行動		申し送り		
	水												
	木												
	金			まとめ				チームに紹介					

図1-2

2012年度 研修プログラム(選択)

※ 研修プログラムの調整

実習はナースとともに行動し、ホスピスにおけるケアの実際を学ぶことが基本であるが、各人の研修目的に応じて、他の学習の場(□)で表示)を選択することができる。
研修プログラムの調整は、研修生の希望をもとに看護部長又は研究所長と相談しながら、研修担当ナースが行う。

※ 患者の受け持ちについて

短期間の研修のため、基本的に患者を受け持つということはないが、研修生の希望があれば、同じ患者の看護に継続して参加できるようアサインメントを工夫する。

※ 研修期間中に開催される事例検討会、Study Day、ホスピスケア研究会、地域緩和ケア研究会、について、研修生の希望がある場合は参加可能とする。

		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
第1週	月				オリエンテーション				チームに紹介 チームミーティング		宿泊施設へ案内		
	火		申し送り						オンライン ミーティング		ソーシャル ワーカー		
	水											入院検討 委員会	
	木										申し送り		
	金												
第2週	月				Vo活動								
	火		申し送り			礼拝	チャプレン	チームに紹介 チームミーティング			申し送り		
	水				医師					栄養士	看護		地域研究会
	木				訪問看護①				訪問看護②			事例検討会	
	金												
第3週	月							チームに紹介 チームミーティング					
	火		申し送り		インチャージ業務				インチャージ業務		申し送り		
	水											夜勤	
	木	夜勤			ハウスキーパ体験								
	金			まとめ				チームに紹介					

共通体験

希望により体験